

令和5年度 第2回「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」議事録要旨

日 時 令和5年11月1日（水） 10時00分～11時30分

場 所 甲府市役所本庁舎6階 大会議室

出席委員 西久保浩二委員長、田中由美副委員長、吾妻修治委員、飯島司委員、河野嘉孝委員、内藤恵一委員、濱田哲一委員、平岡浩委員、豊前貴子委員、向山孝明委員、村松晴己委員

事務局 山本産業部長、近藤商工観光室長、萩原商工課長、樋田商工課課長補佐、矢崎商工課課長補佐、市川商工課主事

次 第

甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会

- 1 開会
 - 2 委員等紹介
 - 3 議事
 - (1) 甲府市商工業振興行動計画
 - ア 「人材の育成及び確保」について
 - イ 「ウィズコロナ等への対応」について
 - (2) その他
 - 4 閉会
-

3 議 事

(1) 甲府市商工業振興行動計画

ア 「人材の育成及び確保」について

事務局より、資料1『令和5年度 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会「人材の育成及び確保」・「ウィズコロナ等への対応」』、資料2「甲府市商工業振興行動計画の体系図」に基づき、説明。

○委員からの意見等

(委員長) 事務局から、施策の柱1の「人材の育成及び確保」についてご説明いただいたが、具体的な取組について一つずつ意見を伺いたいと思う。

(1) 中小企業経営者セミナーについて、何かご意見・ご質問はあるか。

(委員) 今の中小企業にとっては興味のある内容ではないかと思う。株式会社日本M&Aセンターは実績もあるので、多くの方に参加してもらえたらいいと思う。

(委員長) この事業は(2)の事業承継補助金の事業ともつながっていると思うので、セ

ミナーを聞いて利用していただければいいと思う。

(事務局) (2) の補助金については、創設したが、県内で12件の事業者が山梨県の補助金を利用しているが、市内の方は0件という状況なので、是非セミナーを通じて、意識を持ってもらい、利用者は増えればと考えている。

(委員長) そのためにも何かいい周知方法はないか。

(委員) 私たちの団体でも独自に経営者向けのセミナーを行っている。事業承継については会員の皆様もとても興味のある内容だと思うが、こういった周知の仕方をしているのか伺いたい。

(事務局) 周知については市HP、中小企業団体中央会、商工会議所に周知の依頼をしたり、会報に掲載していただいている。また、中小企業家同友会やニュービジネス協議会にも会員の皆様へのメールやFAXで配信のお願いをしている。

(委員長) いわゆる対面式のみで、ハイブリットで行う予定はないのか。

(事務局) オンラインでの開催は考えていない。実際会場に来ていただく必要がある。

今回の内容としては、M&Aを広く周知するため、譲受に注意すべきことと実際に譲渡した企業の経験談を聞ければと思い、こういったテーマにした。

(委員) M&Aはこれからの山梨県の中小企業には必要なことで、今後そういった方向で進むべきと考えている。

県内企業は自社を含め、小さい企業が多く、日本M&Aセンターは大型の企業を多く取り扱っているという記憶がある。

次回以降は小さい企業のM&Aなどを取り扱っている会社に講師をお願いするのがいいのではないかと。

皆、企業は同じようなことで悩んでいるので、セミナーで一方通行にするのではなく、グループワークの時間を設けてもらうといいのではないかと。

(委員長) (2) の補助金も含めて、議論したい。企業価値を算定するだけでも使うことはできるのか。

(事務局) 中小企業者等事業承継補助金については、県の引継ぎ支援センターに相談をし、県の補助金の利用をした上で、市でも追加で補助するというような内容になっている。まずは、引継ぎ支援センターに相談をお願いしたい。

(委員長) 利用するコストのハードルを下げたいということによいか。

(事務局) その通りである。

(委員) 事業所数も減っているなかで、事業承継はとても重要な課題である。

やまなし産業支援機構の事業承継・引継ぎ支援センターにいる職員の中で、甲府商工会議所に席を置いている職員もいる。

その方は毎日様々な事業所を訪問しているので、その方またはそれ以外のエリアマネージャーの方をお願いをして、チラシを配ってもらったらいいのではないかと。

事業承継に関わりのある企業を訪問していると思うので、より参加の確率が高くなるのではないかと。

(委員長) とても有効な手段と思う。併せて補助金のお知らせもしてもらえばよいのではないかと。

(事務局) 是非、そのように対応したい。

(委員長) 次に、「新入社員研修等に対する支援」について、すでに実績のある事業となるが予算はまだあるのか。

(事務局) 予算はまだある。

コロナ前は商工会議所以外にも中小企業家同友会に利用していただいたが、コロナ禍以降は商工会議所のみとなっており、中小企業家同友会では現在も行っているか。

(委員) 毎年4月に実施している。

(事務局) コロナ禍以降、申請がなかったため、是非申請をしていただきたい。

(委員) 4月の合同入社式の後に研修を行っている。

(委員長) 今年度の件数とはならないが、そのあたりはどうか。

(事務局) 今年度は申請が上がっていないため、来年度の扱いとなる可能性が高い。

(委員) 新入社員のフォローアップ研修を6か月後くらいに実施をしているが、それも対象となるのか。

(委員) 商工会議所でやっているのが、まさにそのフォローアップ研修なので、問題ないかと思う。

(事務局) 新入社員だけでなく、若手の職員の育成にも利用できる補助金となっているので、是非申請をお願いしたい。

(委員) 今後対応させていただく。

(委員) 人材不足が問題になっているなかで、入社して間もない外国人人材についての研

修についても対象となるのか。また、日本語のビジネス研修でも使えるのか。

(委員長) 若手の定義としては、何か決まりがあるのか。

(事務局) 基本としては新入社員・若手従業員の人材育成や技術向上に関わっているものではあれば対象となる。

商工業を営む者で組織する団体で行う研修に対して補助しているため、個社に対する補助制度は現状ない。

(委員長) 現在はリスキリングも話題になっており、60代でも若手というような人も増えてきているので、制度を拡張してもよいかもかもしれない。

次に、「ITを活用した業務改善のための研修の実施」について、新規事業の妥当性も含め議論したい。

(委員) 現在、8社15名が参加しているとのことだが、年に1回しか使えないという話と聞いた。具体的な制度内容について聞きたい。

(事務局) こちらについては1事業者について1回申請可能としており、広く多くの事業者にも利用してもらいたいと考えている。

(委員) 研修費用がとても安いので、年度で2回利用するという人もいるのではないかと。

(事務局) ポリテクセンター山梨と連携するなかで、リピーターになる方が多いということも聞いている。そのため、年度でまとめて申請する方もいるという話は伺っている。

そこも含めて、要綱の改正をしていく必要があるのではないかと考えている。

(委員) ポリテクセンター山梨の方が言うには、使いづらい制度と言っていた。そのあたりをきちんと記載しつつ、制度の改善をしていく必要があると思う。

(事務局) ポリテクセンター山梨と連携を図りながら、調整していきたい。

(委員長) 同じ人が3つの講座をすべて受けることはできないということか。

(事務局) 受講者1人あたり2,000円及び1事業者あたり5名分までを上限に補助することとなっているため、5人が3つの講座を全て受けても、全てを対象にはできない。

(委員長) 確かにリピーターが多くなる可能性はあるので検討の余地はあると考える。次に、「ものづくり体験教室への支援」と「甲府市産業支援サイト」についてはどうか。

(委員) 人材の確保はとても難しくなっている。

甲府市産業支援サイトは企業のPRサイトとしてはとてもいいものだと思うのだが、掲載企業数がまだまだ少ないのではないかと。

もっと増やす努力が必要と考えるので、広く経済団体に周知すべき。

自社も登録しているが、会社概要のみが載っているため、エントリーにつながらないので、エントリーにつながるようにサイトを変えていくことができるのではあれば、お金のかかることだが検討してほしい。

登録していても、ここからの問い合わせは一切ないのが現状である。

求人サイトのようにすることは可能なのか。

また、求人の確保について、合同企業説明会を実施しているが、UターンやIターンについての事業をもっと実施した方がいいのではないか。

この時は、新宿から無料のシャトルバスを出していたので、逆に東京等の首都圏で説明会を開催するなど、山梨県でもそういったことを実施していたので、甲府市でも実施できないか。

(委員長) 各求人サイトのリンクをつけるのは、そこまで難しくはないと思うので、検討していただきたい。

(事務局) 本市のポリシーなど確認していく中で検討していく。

産業支援サイト内にある就職応援サイトにつなげることが可能か、部内でも検討していきたい。

(委員長) このサイトは県内の高校・大学への周知はしているのか。

県内志向の大学生は増えてきているので、詳しい情報があるのではあれば、周知してほうがよいのではないか。

(事務局) 現状行っていない。

(委員長) キャリアセンターを通じて周知できるので、是非周知してほしい。

(事務局) 是非、対応したい。

(委員) ものづくり体験教室について、親子ものづくり体験教室の竹とんぼをつくる事業に対して支援をしているとのことだが、これで市内産業を知る機会だとか、就職意識の醸成ができているのか。過去の実績も含めて伺いたい。

もっと能動的に行うべきではないか。これで小中学生に意識が芽生えるのか。

(委員) 地場産業の印伝やジュエリーでの接点をもつべきではないか。

工場見学とか、1回と言わず、機会を増やしていくことが必要ではないか。

(委員) 地元の小学校ではないが、とある小学校から応募があり工場見学を実際に行い、反響もいい。

こういった業界や事業があることを知ってもらうことが必要で、小学生なりの意見を聞くこともできる。

小学生だけでなく、中学生・高校生でも対象として自社でも同友会でも行っている。

もっと窓口を広くして、行政だけでなく、事業者が業界の周知に努めないと、伝わらないと思う。

産業支援サイトに自社も掲載していただいております、応募する決定打となった人材は何人かいて、有効活用させていただいている。

(委員長) 県内の産業に密着したものづくり体験に支援することも検討していただきたい。

(委員) 支援サイトを見て、応募して就職したというような事例があるはずなので、そういったところをPRしていけばいいと思う。

また、若者や女性はSNSをよく見るので、そこを充実していけばいいのではないかと。

(委員) 人材の確保が問題になっているが、売り手市場になっており、就職したい人が強い状況にあるので、学生に直接アプローチしていくことが重要だと考えている。

そういったイベントを当行と商工業団体で実施していきたいと考えており、地元の学生を地元にとどめておきたいと考えているため、市でも支援をお願いしたい。

また、商工業団体に対する活動に対して支援をしているが、商工業団体の定義は何か固定の団体のみと決まっているのか。

(事務局) 商工業を営む者で組織する団体というおおまかな定義のみとなっている。

想定としては、商工会議所・中小企業家同友会・中小企業団体中央会等を対象と考えているが、固定の団体に対してというわけではない。

(委員) 登記の要件どうこうよりかは、事業者方が集まってできている団体であれば、対象ということでもいいのか。

山梨中央銀行の中に経営者クラブというものがあり、当行のお客様が集まってできているのだが、該当するのか。

(事務局) 趣旨・目的は合致すると思うが、個々の事例については検討が必要となる。

(委員長) 女性に関するセミナーについても、急ぎ集客にご協力をお願いしたい。

イ 「ウィズコロナ等への対応」について

事務局より、資料1『令和5年度 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会「人材の育成及び確保」・「ウィズコロナ等への対応」』、資料2「甲府市商工業振興行動計画の体系図」に基づき、説明。

(委員長) 次に、「ウィズコロナ等への対応」についてご意見をいただきたい。

(委員) 申込の期間も2週間と短く、もっと時間をかけて行うべき事業ではないか。また、すべて市の財源で実施しているのか。

(事務局) 期間について、12月20日から商品券を使えるとしており、年末年始やクリスマスなどで消費が活発になる時期にあたることから、利用期間を12月20日からとしている。

周知期間についてもタイトなスケジュールではあるが、皆様にもご協力いただきたいと考えており、市の考え方として年末年始に間に合わせるためにこう言った形となっている。

財源については、全て国からくる臨時交付金で対応することとなっている。

(委員) 抽選と書かれているが、こういった形となるのか。

(事務局) お配りしているチラシは本日新聞の折り込みにも入れており、購入口数の上限が決まっており、予算オーバーした場合は抽選とし、方法については庁内でも協議を進めている。

落選者が出てしまうと不公平になってしまうので、上限を調整して広く多くの方に利用できるようにしたいと考えている。

また、参加店舗登録向けのチラシもあるので、委員の方々の力をお借りして、周知していきたいと考えている。

(委員) 紙とデジタルの名寄せはするのか。実質できないと考えるが。

紙については誰でも買えるような状況にならないか。

(事務局) 紙とデジタルの同時購入は不可としているので、名寄せは実施する。

また、紙についてそこまで厳密に行うことは難しいが、規約を周知し、気を付けて申込をしていただくようにしていきたい。

(委員長) 周知しすぎると、利用者が増えすぎるという考え方もあるが。

(事務局) 確かにそういった考え方もあると思うが、市としては完売をさせたいと考えているため、是非ご協力いただきたい。

(委員長) 八王子市では先着順であったが、並ぶという問題もある。

是非、主に参加店舗の募集の周知になるかと思うが、お願いしたい。

最後に全体を通じてのご意見があれば。

(委員) 事業承継について、公庫としても喫緊の課題だと考えており、事業承継診断も行っているが、実際に問題と考えていない事業者が多いことも事実。

セミナーと通じて、補助金を周知することはとてもいいと思う。また、利用者や参加者にアンケートをとってみるのはどうか。そうすれば、ニーズにあった制度設計をしていくことができると思う。

ITを活用した業務改善の研修への支援について、ExcelやWordとあるが、DX人材・IT人材が不足していると言われているので、そういった講座の指定をした方

がいいのではないか。

(委員) 甲府市は水晶研磨の技術で日本でも有数のジュエリー産地と言われてきたが、知名度が低く、職人も減っている。

今後、産地とは名ばかりの流通の拠点になる可能性がある。

宝石のまち甲府ということでいろいろと支援をしていただいているが、危機感を感じている。

昔は国の名工なども多く輩出していたが、現在はその登竜門である県のやまなしの名工の候補者もないという状況になっている。

ふるさと納税でのクラウドファンディングや東京ガールズコレクションに参加して、発信力を強化していることはとてもありがたいが、人材の育成のために奨学金等をやってほしい。他市ではすでに行っているところもある。

地場産業を残していくという強い意志を持って、取組を充実させてほしい。

(委員長) ものづくり体験も含めて、長期的に考えていくべきことかと思う。

(2) その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。

(委員長) 以上で議事を終了します。ありがとうございました。

以 上